留学生の眼　⑪中国

ホームステイによる交流

文学研究科留学生　柴（チャイ）　彦威（ヤンワイ）

您好！今日は！

この夏，私は第７回高野町ホームステイに参加してきました。私の３回目のホームステイの体験でした。１回目は「みかん交流会」の主催で山口県の周東町で，２回目は広島県の三良坂町でした。

留学生が専門の知識と技術の習得という目的だけではなく，日本人の心に直接に触れ，さまざまな日本事情を体験的に学ばなければならないこと，とよく言われています。私も同感で留学中にできるだけ数多くの友人を日本でみつけるようにしております。また，地理学専門の関係で私は日本の過疎山村に興味をもっています。そして，機会があれば，私は積極的にホームステイに参加しています。

毎回のホームステイでもすばらしい友人ができ，お互いの知識が見直され，日本人の心や習慣などは多く身につけられてきました。さらに，日本人と接触すればするほどより客観的に自分の姿を再発見するようになりました。日ごろ都市の生活だけで知られない日本のもう一つの顔は分かってきました。

次には，今回高野町のホームステイについて気がついた点を話しましょう。まず，各福祉や娯楽施設が思ったより，はるかに整備されていることと，町民間の強い連帯意識が感じられることであります。高野町は広島市から119kmも離れ，人口が約3,000人の小さい田舎町でありながらも，村内には幼稚園，小，中学校，運動場，文化センター，キャンプ場，スキー場をはじめ，様々な施設は整備されています。近年人口が増えつづけていることも聞いており，地域の活性化は確実に進んでいると感じられます。また，村人たちはもてなしや訪問に関しては都会人のように堅苦しくはありません。お互いの交流を何時でも自由にしているようです。同じ高野町の地域帰属感は感じられるのです。

もう一つ感心したのは，高野町のホームステイ事業が村内の有志者（約10人）のつくった「高野町国際交流つどいの会」の自主運営によって７年間も続けられてきたことです。そのねらいは，できるだけ多くの家庭にホストファミリーを経験してもらうことや，子供に国際感覚を与えることや，ただ友達になりたいことなどで，とても素直であります。

おわりに，私は，留学生の皆さんに，積極的にさまざまなホームステイに参加しようと呼びかけたいのです。